

会 議 記 録				
会議の名称	広報広聴会議			会議場所 全員協議会室
				担当職員 小川
日 時	令和7年6月2日（月曜日）			開 議 午後1時00分
				閉 議 午後1時40分
出席委員	◎木村 ○三上（広報部会長） ○林（広聴部会長） 竹内 小林 大塚 大西 山木 （欠席：梅本）			
執行機関 出席者				
事務局 出席者	小川次長、福沢主査、田中主事			
傍 聴	可	市民0名	報道関係者0名	議員0名（ ）

会 議 の 概 要

13:00～

○開 議

【事務局日程説明】

1 広報部会の活動について

<三上副委員長（広報部会長）>

6月議会の内容を掲載する議会だよりNo.205の掲載事項について確認した。広聴の特集ページについて、広聴部会と連携して作成していきたい。また、議会モニターが7名いるので、全員に「市民の声」を書いてもらう予定にしている。1号あたりに2名ずつ「市民の声」を書いてもらう予定である。

また5月に各委員会で実施した行政視察についても掲載を考えている。

<山木委員>

前回の市議会だよりの表紙を全面的に大きく写真を掲載され、結構市民から好評であった。8月号も写真掲載にするのか。

<三上副委員長（広報部会長）>

週刊誌風から写真のフォーカスに変えた。写真での掲載を当面続けていこうと考えている。何か良い案があれば出してほしい。

2 広聴部会の活動について

<林副委員長（広聴部会長）>

街頭インタビューの結果、わがまちトーク、議場見学会の3点について報告する。街頭インタビューの集計結果は、別紙のとおりである。調査事項について、「議会モニターを知っているか」、「わがまちトークを知っているか」の2点を63人に聞いた。回答結果は市議会モニター制度を知っているが20人で3割強、わがまちトークを知っているが12人で2割弱となっている。

振り返りの意見としては1グループの人数が多いのではないかと、3人1グループにしてはどうか、知らない方にはLineにつながるQRコードなどを提示するなど、PRできる媒体が必要ではなかったかという意見があった。

市民に限定して尋ねたが、市民以外の方で議会を知らない方にはもう少しわかりやすい案内などを持参し、丁寧な対応をした方がよかったのではといった意見があった。今後はスーパーの前など多くの方が来る場所で開催する方がよいと思う。

わがまちトークについては、5月1日から参加を募っている。参加人数5名の団体から申し込みがある。テーマは「ママが思う子育てのこんなのがあったらいいな」で希望されている。開催日時と場所は特に希望がないので、広聴部会で調整して決定したい。昨年に引き続き、はたちの会実行委員会と開催の方向で進めていく。社会教育課と現在調整中であり、昨年度同じ時期になる予定である。自治会は、現時点での申し込みはない状態で、今後も申し込みが期待できないので、こちらから働きかけたいと思う。これまで開催実績のない自治会として旭町、篠町、大井町の順に声かけをする予定である。今年度は自治会とのわがまちトークは1件を目途にする。

議場見学会について、日時は8月9日土曜日、市内の小学1年生から6年生を対象とする。募集期間は7月1日から8月5日までとする。

募集の方法は亀岡市広報7月号に掲載するほか、Line、市議会フェイスブック並びに市議会だより205号、亀岡市ホームページに掲載予定である。各議員のSNS等で積極的な広報支援を依頼する。

教育委員会を通じて各小学校保護者向けに広報チラシのデータ送信を行う予定である。

議場見学会は低学年と高学年との成長段階を考慮して、イベントやアンケート内容に工夫を凝らしていきたいと考えている。

<竹内委員>

毎年、議場見学会は直前になって議員の知り合い、あるいは職員の知り合いに声かけをするなど慌てることもあり、広報も後手に回ってしまう傾向にある。議員のSNSの広報支援はもっとも大事であるが、議員任せにするとどうしても後回しになったりするので、いつに発信するのか取り決めて行う方が、確実性と宣伝効果が上がると思う。

議会のことを簡単に見てわかるリーフレットを作れば、いつでもどこでも配れるので、議会紹介のリーフレットがあってもいいと思った。

そのためには、議会の紹介内容を事前に抽出してまとめておく必要があり、その情報をもとにリーフレットやHPを作ればよいのではないかと考えた。

<林副委員長（広聴部会長）>

自治会未加入者に対して、LineにつながるQRコードを示したり、議会だよりを渡せるように準備した方がよかったという意見もあった。

議会だよりは学校教育課から議場見学の案内をしてもらえることになっている。

各議員の広報発信については、各議員が持つSNSもしくはフェイスブックなど発信媒体を決めて対応した方がよいと思う。

<木村委員長>

リーフレットの作成はどちらかというと議会活性化の案件ではないか。

<三上副委員長（広報部会長）>

リーフレットは予算が必要になるので、費用をかけずにHPでアニメーション等を作成や、Q&Aを作成や、QRコードを作るなど、カラー版を作成することを想定している。誰にでもわかるリーフレット作成は、費用がかかり、予算化が必要な内容でもあるので、議会活性化の案件でもある。

わがまちトークは自治会にこだわる必要はないと思う。篠町は2万人で広範囲のまちであり、篠町自治会の区は39区と大変大きい自治会である。自治会顧問として三上議員、梅本議員がいつでも話をすることができる。区の役員を集まるとなると相当な人数であったり、誰でもいいよというとならぬことになったり、たとえば篠町の地域で若い人で議会としゃべってみないかなど役員に限らずに募る方法も考えられる。自治会では、動きがとれないこともあると思われる。

大井町も同じことが言えると思う。自治会としてではなく、篠町自治会には議会と住民とが話しをするにはどうすればいいのかと投げかけて、まずは相談する方がいいと思われる。

<林副委員長（広聴部会長）>

特に篠町は人口が多く、広い地域でもあるので、スポット的な話題で募集し、関心が高い人が集まって行う方法もある。旭町は移住した人が多い。農業に熱心な方が多いことも知っている。自治会単位にこだわる必要はないと思う。

<三上副委員長（広報部会長）>

篠町である地域では子育て世代が多い地域がある。議会モニターが住んでいる地域に子育て世代が多い地域と聞いているので、連携して開催できるとわがまちトークが盛況にできると思われる。

3 そ の 他

<木村委員長>

次回の開催予定について事務局から説明願う。

<事務局次長>

さきほど報告、討議をした議場見学会は、6月27日の議会運営委員会で委員長よりご報告をお願いしたい。

—全員了—

散会～13：40